

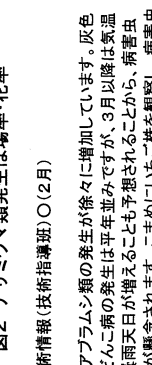
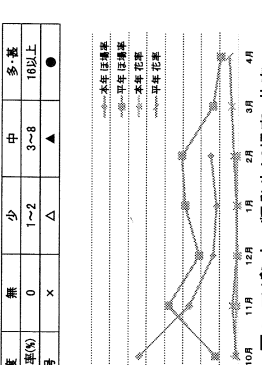
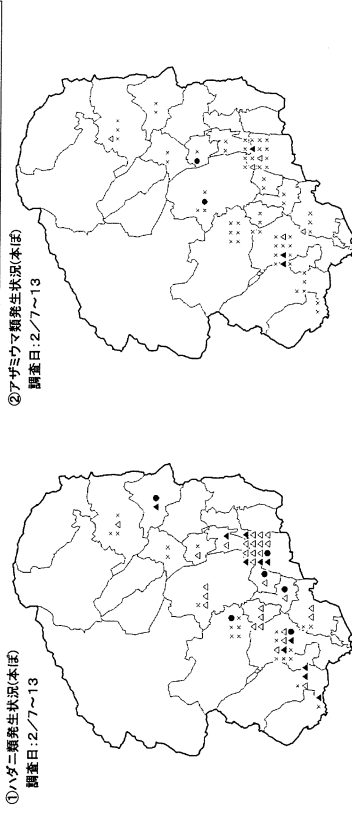
いちご病害虫情報第9号(2月)

平成25年2月22日
栃木県農業環境指導センター

発生ほ場数	灰かき病		うどんこ病		アブラムシ類		ハダニ類		アザミウマ類		アザミウマ類発生状況(本県)	
	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値
4	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
発生ほ場数	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
平均値	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
発生ほ場数	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
平均値	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
発生ほ場数	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
平均値	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10

※アザミウマ類の発生は花蕾からつぼみ開花まで発生します。

○今月の病害虫発生状況
ハダニ類の発生はやや多くなっています。天候が暖かくなると発生が増える可能性があります。アザミウマ類は発生がやや多くなっています。アザミウマ類は発生がやや多くなっています。アザミウマ類は発生がやや多くなっています。



○今月の技術情報(技術指導班)○(2月)

ハダニ類、アブラムシ類の発生が徐々に増加しています。灰色かび病やうどんこ病の発生は昨年並みですが、3月以降は気温が上昇し、曇雨天日が増えることも予想されることから、病害虫の発生増加が懸念されます。こまめにいちご株を観察し、病害虫の早期発見や早めの薬剤防除により、被害の軽減に努めて下さい。

また、日射が強まるため、温度の上昇による果実の腐みなど、品質低下にも注意が必要です。内張りビニールは南側を閉めて、日射を弱め、内張りは北側、外張りは南側を開けるなど、開閉方法を工夫しましょう。

多湿によっても果実の腐みや病害発生恐れがあります。かみ水は一度に多量に行うことは控え、間隔を短く、1回当たりの量を少なくして調節しましょう。

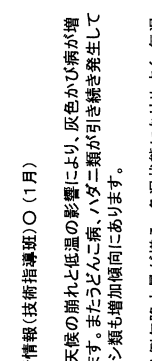
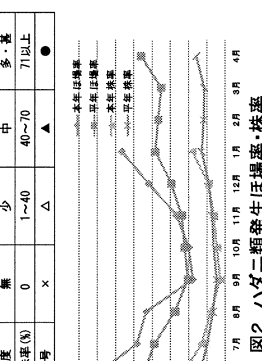
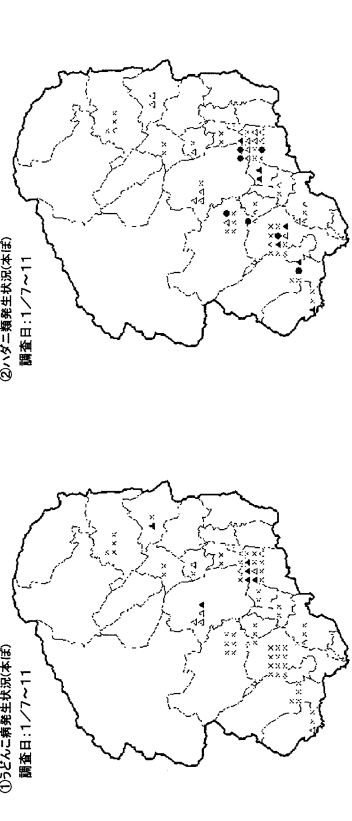
いちご病害虫情報第8号(1月)

平成25年1月18日
栃木県農業環境指導センター

発生ほ場数	灰かき病		うどんこ病		アブラムシ類		ハダニ類		アザミウマ類		アザミウマ類発生状況(本県)	
	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値
1	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8
発生ほ場数	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8
平均値	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8
発生ほ場数	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8
平均値	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8
発生ほ場数	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8
平均値	1.4	10.1	7	15	6	4	39	21	0	0	8	8

※アザミウマ類の発生は花蕾からつぼみ開花まで発生します。

○今月の病害虫発生状況
うどんこ病の発生がやや多い状態が続いており、灰かき病も発生がやや多くなっています。アザミウマ類の発生は発生がやや多くなっています。アザミウマ類の発生は発生がやや多くなっています。アザミウマ類の発生は発生がやや多くなっています。



○今月の技術情報(技術指導班)○(1月)

12月後半の天候の崩れと低温の影響により、灰かき病が増加しつつあります。またうどんこ病、ハダニ類が引き続き発生しており、アブラムシ類も増加傾向にあります。

2月以降には列年降水量が増え、多湿状態になりやすく、気温も徐々に上昇してきます。そのため、これらの病害虫による被害が拡大する恐れがありますが、収穫量が増加し、作業時間がとれなくなる可能性があるため、下葉かきなどの管理が遅れがちになることが懸念されます。普段からの観察と計画的な作業、早めの薬剤防除等により、被害を防止しましょう。

またハウス内の適正な温湿度管理や換気等により、病害虫が発生しにくい環境条件づくりにも努めましょう。

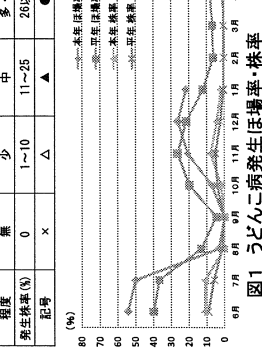
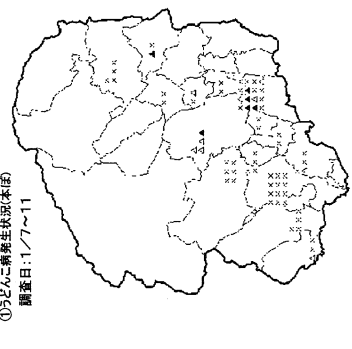
いちご病害虫情報第9号(2月)

平成25年2月22日
栃木県農業環境指導センター

発生ほ場数	灰かき病		うどんこ病		アブラムシ類		ハダニ類		アザミウマ類		アザミウマ類発生状況(本県)	
	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値	発生ほ場数	平均値
4	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
発生ほ場数	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
平均値	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
発生ほ場数	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
平均値	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
発生ほ場数	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10
平均値	5.9	10.3	7	4.4	4	5	46	17	0	0	10	10

※アザミウマ類の発生は花蕾からつぼみ開花まで発生します。

○今月の病害虫発生状況
ハダニ類の発生はやや多くなっています。天候が暖かくなると発生が増える可能性があります。アザミウマ類は発生がやや多くなっています。アザミウマ類は発生がやや多くなっています。アザミウマ類は発生がやや多くなっています。



○今月の技術情報(技術指導班)○(2月)

ハダニ類、アブラムシ類の発生が徐々に増加しています。灰色かび病やうどんこ病の発生は昨年並みですが、3月以降は気温が上昇し、曇雨天日が増えることも予想されることから、病害虫の発生増加が懸念されます。こまめにいちご株を観察し、病害虫の早期発見や早めの薬剤防除により、被害の軽減に努めて下さい。

また、日射が強まるため、温度の上昇による果実の腐みなど、品質低下にも注意が必要です。内張りビニールは南側を閉めて、日射を弱め、内張りは北側、外張りは南側を開けるなど、開閉方法を工夫しましょう。

多湿によっても果実の腐みや病害発生恐れがあります。かみ水は一度に多量に行うことは控え、間隔を短く、1回当たりの量を少なくして調節しましょう。

写真1 果実に発生したうどんこ病

写真2 ナミハダニによるカスリ状の吸汁痕

写真1 果実に発生したうどんこ病

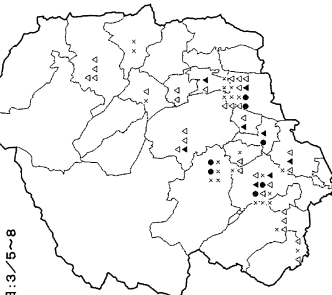
写真2 ナミハダニによるカスリ状の吸汁痕

いちご病害虫情報第10号(3月)

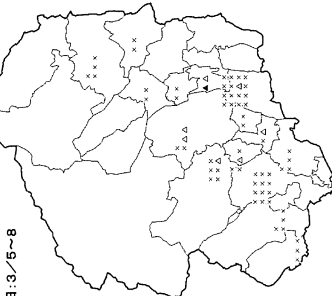
平成25年3月15日
栃木県農業環境指導センター

発生ほ場数	調査圃		調査圃		調査圃		備考			
	区画	区画	区画	区画	区画	区画				
発生ほ場数	2	9	5	6	8	46	17	0	20	総調査ほ場数: 80ヶ所
平均値	2.8	13.0	7.2	8.7	11.6	66.7	24.6	0.0	29.0	総調査圃数: 1,725圃
標準偏差	2.9	16.1	7.1	3.8	2.8	39.5	51.6	0.0	36.1	調査圃数: 1ほ場50圃(一部100圃)
発生圃率	100.0	80.7	101.4	228.9	414.3	168.9	47.7	-	80.3	※アザミウマ類の発生は花圃数かつ平均値は過去2年の値
発生圃率	0	9	2	0	25	394	66	0	137	○今月の病害虫発生状況
発生圃率	0.0	0.5	0.1	0.0	1.4	22.8	3.8	0.0	2.0	ハダニ類の発生は生育から終収穫まで多い状況です。
発生圃率	0.2	1.4	0.5	0.1	0.4	14.0	16.0	0.0	3.5	アブラムシ類の発生は増加しており、平均に比べて多い状況です。
発生圃率	0.0	35.7	20.0	0.0	390.0	162.9	29.8	-	57.1	アザミウマ類は発生は平年並ですが、一部のほ場では被害が広がります。

①ハダニ類発生状況(本ほ)



②アブラムシ類発生状況(本ほ)



いちご病害虫情報第11号(4月)

平成25年4月19日
栃木県農業環境指導センター

発生ほ場数	調査圃		調査圃		調査圃		備考			
	区画	区画	区画	区画	区画	区画				
発生ほ場数	1	10	13	6	10	42	16	0	35	総調査ほ場数: 60ヶ所
平均値	1.4	14.5	18.8	8.7	14.5	60.9	23.2	0.0	52.2	総調査圃数: 1,725圃
標準偏差	0.3	13.0	7.5	3.2	5.9	51.3	60.5	0.2	67.2	調査圃数: 1ほ場50圃(一部100圃)
発生圃率	465.7	111.5	250.7	271.9	245.8	118.7	38.3	0.0	77.7	※アザミウマ類の発生は花圃数かつ平均値は過去2年の値
発生圃率	0	35	19	0	44	374	107	0	373	○今月の病害虫発生状況
発生圃率	0.0	2.0	1.1	0.0	2.6	21.7	6.2	0.0	5.4	灰毛かみゆい、うどんこ病の発生が増加しており、果実での発生も見られます(写真1)。
発生圃率	0.0	0.9	0.7	0.1	0.8	19.0	19.0	0.0	4.7	アブラムシ類は発生は平年並ですが、一部のほ場では被害が広がります。
発生圃率	-	222.2	157.1	0.0	325.0	114.2	32.6	-	114.9	アザミウマ類は発生は平年並ですが、一部のほ場では被害が広がります。

①うどんこ病発生状況(本ほ)



②アザミウマ類発生状況(本ほ)

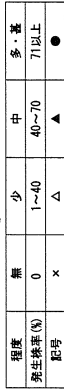
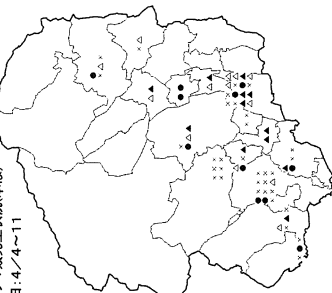


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

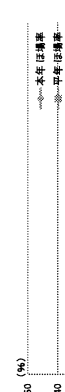


図2 アブラムシ類発生ほ場率・株率

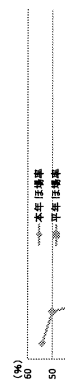


図3 うどんこ病発生ほ場率・株率



図4 アザミウマ類発生ほ場率・株率

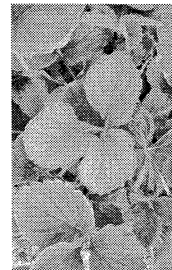


写真1 ハダニ類の被害

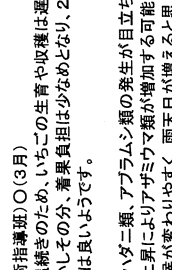


写真2 果実に寄生したワタアブラムシ



写真3 果実に発生したうどんこ病(灰)と灰色かみゆい(右)

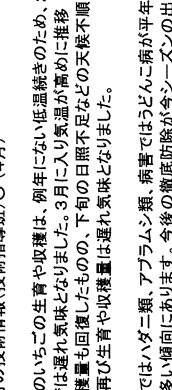


写真4 花に寄生したアザミウマ類

○今月の技術情報(技術指導班)○(3月)

- ・本年は例年にならない低温続きのため、いちごの生育や収穫は遅れ気味となりました。しかしその分、着果負担は少なめとなり、2月下旬以降の草勢回復は良いようです。
- ・害虫では現在のところハダニ類、アブラムシ類の発生が目立ちますが、今後は気温の上昇によりアザミウマ類が増加する可能性があります。また、天候が変わりやすく、雨天日が増えると思われれます。降雨後は高温多湿となり、灰色かみゆい、うどんこ病などの病害が増加する恐れがあります。早期発見と早期の予防により、これら害虫の被害軽減に努めましょう。
- ・また、株が繁茂してきますので、不要な下葉等を取り除いて風通しを良くし、薬剤防除の際には葉液が葉裏までよくかかるようにすることが重要です。
- ・3,4月は親株の定植時期となりますが、病害虫の発生が無いかわ、よく確認して定植しましょう。定植後は害虫類の新たな発生にも注意が必要ですが、

○今月の技術情報(技術指導班)○(4月)

- ・本年のいちごの生育や収穫は、例年にならない低温続きのため、2月までは遅れ気味となりました。3月にいり気温が高めに推移し、収穫量も回復したものの、下旬の日照不足などの天候不順により再び生育や収穫量は遅れ気味となりました。
- ・害虫ではハダニ類、アブラムシ類、病害ではうどんこ病が平年よりも多い傾向にあります。今後の徹底防除が今シーズンの出荷量、収入に影響を与える可能性があります。
- ・今後、水稲作業等も重なり繁忙期になりますが、適正な労力配分、ハウス内の適正な温湿度管理、下葉かきなど環境整備に努め、最後まで良好な生育、品質の良いいちごの収穫に努めましょう。
- ・一方、次産親株も徐々に動き出してきましたが、作柄安定には良質苗の確保が重要です。親株ハウスの温度やかん水管理を徹底するとともに、本ほから病害虫を持ち込まないように注意しましょう。

平成25年5月24日
栃木県農業環境指導センター

いちご病害虫情報第12号(5月)
＜平成25年産いちご主要病害虫の発生経過＞

平成25年産のいちごも終盤ですが、本年も様々な病害虫の発生が見られました。本年産の反省を活かし、今後も適期防除を実施しましょう。

・**炭疽病**は7月下旬以降の高温時より発生が多くなりました。特に、採苗後の多かん水など温度の高い状況が続くことが要因の一つと考えられますが、発生してからの防除は困難なので、発生しにくい環境作り、発生前から定期的な予防散布を行うなどの対策を心がけましょう。

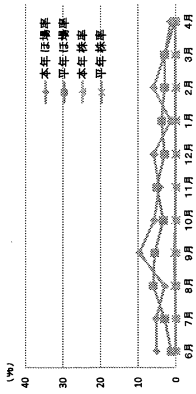
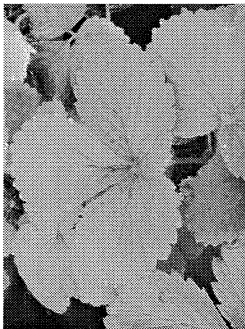


図1 炭疽病発生ほ場率・株率

写真1 炭疽病の病斑



・**うどんこ病**は6、7月と10月以降に発生が増加しました。昨年6月中旬に日照時間が少なく、うどんこ病発生の一因になったと考えられます。比較的低温性の病害のため、夏期の高温時には発生が減少しますが、この時期にも予防散布を継続することで、秋以降の発生が抑えられます。

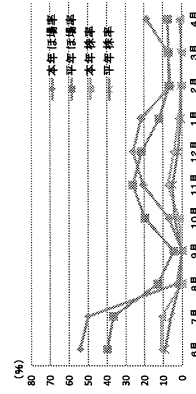
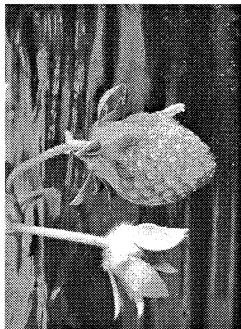


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率

写真2 うどんこ病が発生した果実



・**灰色かび病**は大きな天気の変化の跡れがなかったため少なくなか推移しました。低温多湿が発生を助長しますので、しっかりとした温湿度管理と早めの予防散布により発生を防ぎましょう。

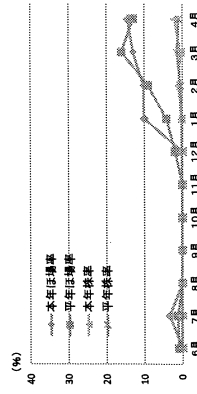
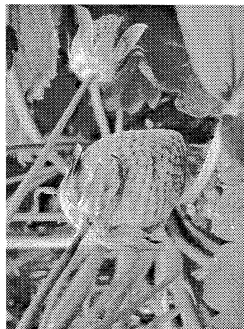


図3 灰色かび病発生ほ場率・株率

写真3 灰色かび病が発生した果実



・害虫では**アブラムシ類**、**アザミウマ類**とも10月に発生が多くなり、その後減少したものの、年明けから気温上昇と共に増加しました。いずれも早期発見、早期防除により多発を防ぐこと、葉裏にも薬剤が良くかかるように丁寧な散布を心がけることが重要です。

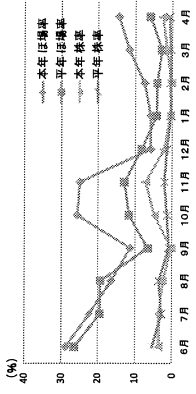


図4 アブラムシ類発生ほ場率・株率

写真4 葉裏に寄生したアブラムシ類

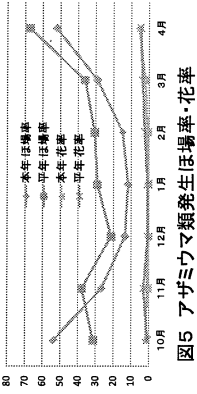
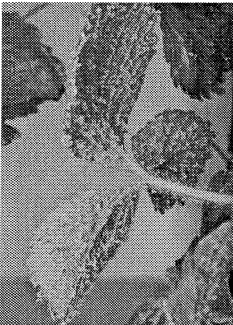
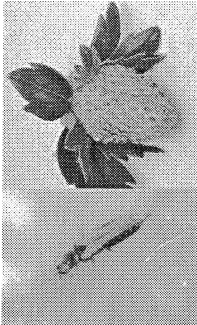


図5 アザミウマ類発生ほ場率・花率

写真5 アザミウマ類とその被害果実



・**ハダニ**類についてはほ場年間を通して発生が見られますが、薬剤に対する感受性は低下の傾向があり、防除に苦慮しています。特に、発生状況が激しくなると収穫終了時期を早く切り上げなくてはならなくなり、気温が上がるので、気門封鎖剤や天敵殺菌剤を上手に活用し、被害を抑制しましょう。

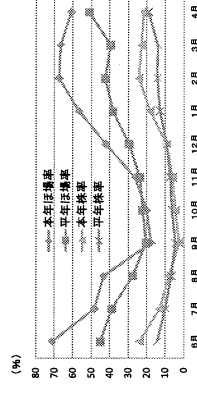


図6 ハダニ発生ほ場率・株率

写真6 吐糸するナミハダニ



・今年産では、ヒメナガカメムシの発生が各地で見られました。天敵の活用等により化学農薬の防除回数が少なくなかったことが影響していると考えられます。



写真7 ヒメナガカメムシ(左:成虫、右:幼虫)

・いちご本場で発生する病害虫は、育苗床から持ち込む場合が多いようです。したがって、本場の病害虫の発生は、育苗期の管理が大きく影響すると言えます。今後は親株～育苗の時期に入りませんが、親株初期から発生しにくい環境整備及び防除を徹底し、育苗床・本場に病害虫を持ち込まないように心がけましょう。

(技術指導班情報提供)

◎いちご促成栽培で発生するアザミウマ類について

1. 発生時期の変化とその原因

春期害虫と思われがちなアザミウマ類ですが、近年は秋期や厳寒期にも認められます。これは、いちご作型の前進と秋期の温暖な気候によって、開花期間と野外でのアザミウマ類活動期間の重なりが拡大したためと考えられます(図1)。

開花期の遅いによる、アザミウマ類とその被害発生との関係を調査したところ、10月上旬までに頂花房が開花したハウスでは、秋期にアザミウマ類の急激な増加と被害の拡大がみられ、さらに春期の発生も早まる傾向がありました(図2)。一方、頂花房の開花が10月下旬以降のハウスでは、アザミウマ類は認められましたが、秋期の発生量、被害量ともに比較的軽度で済んでいます。開花の早いハウスでは、秋期のアザミウマ類の対策をしっかりとること、被害発生の防止を図りましょう。

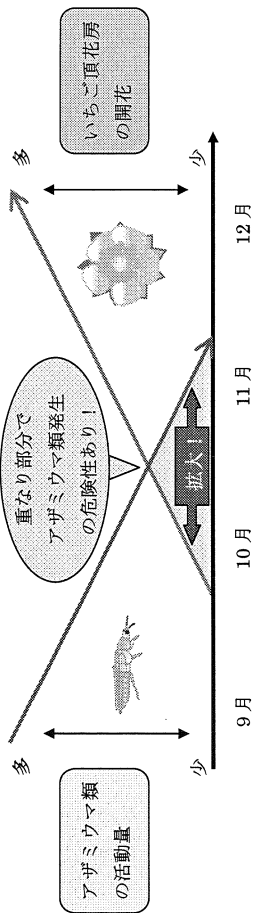


図1 いちご開花期間とアザミウマ類活動期間の関係

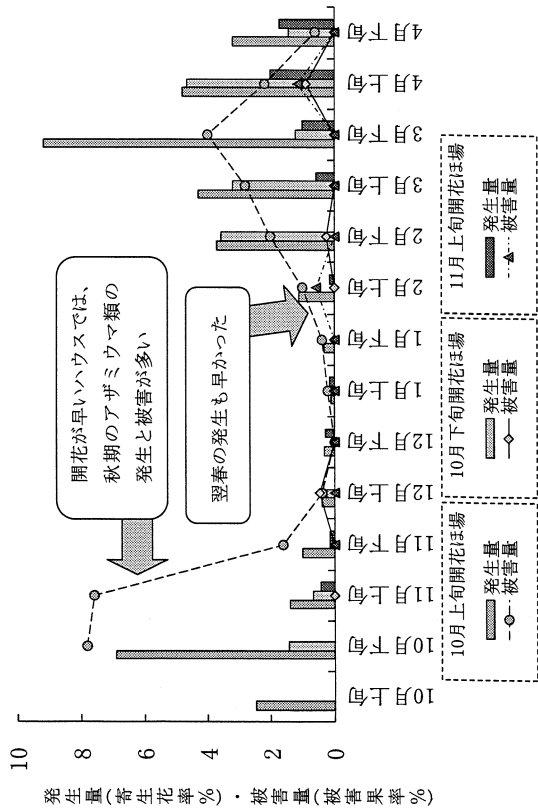


図2 頂花房の開花期とアザミウマ類発生量および果実被害量の関係(平成25年産)

2. アザミウマ類の発生量と果実被害の関係

春先にかけてアザミウマ類が増殖して果実被害も増加しますが、一般に、果実の10%以上に被害が見込まれる場合に防除が必要とされています。調査の結果、アザミウマ類が約17%の花で見つかるタイミングが防除の目安であることが明らかになりました。また、ほ場で見られるアザミウマ類は、体色の黒いヒラズハナアザミウマとハナアザミウマが多く、花をルーペで観察することで見つけられます。

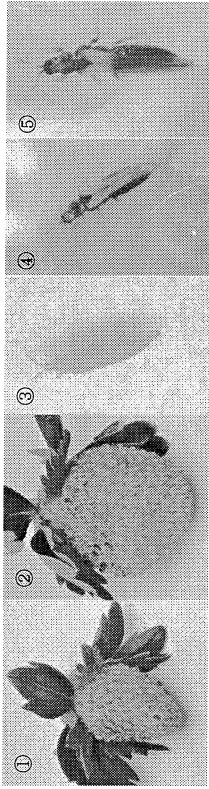


写真. ①未成熟果の被害、②成熟果の被害、③ヒラズハナアザミウマ幼虫、④ヒラズハナアザミウマ成虫、⑤ハナアザミウマ成虫

3. 薬剤防除における留意点

促成いちごで発生するアザミウマ類成虫に対して、主要な薬剤の殺虫効果を調査しました。その結果、スピノエース顆粒水和剤、ディアナSC、アデント水和剤は、発生が多いヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマに高い効果を示しました(表1)。一方で、果内の促成いちごでは発生が少ないミカンキイロアザミウマには多くの薬剤で効果が低く、注意が必要です。

表1 いちごで発生するアザミウマ類成虫に対する主要な薬剤の殺虫効果

薬剤名	ヒラズハナアザミウマ	ハナアザミウマ	ミカンキイロアザミウマ	ミツバチ影響日数
モスピラン顆粒水溶液[アザミウマ類]	×	×	×	1日
アデント水和剤[スピノエースミウマ]	○	○	×	2日
スピノエース顆粒水和剤[アザミウマ類]	○	○	△	3日
ディアナSC[アザミウマ類]	○	○	△	3日
コデウロアブP[ミカンキイロアザミウマ]	○	○	×	10日

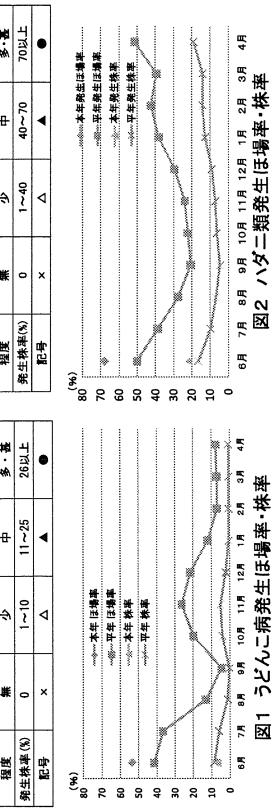
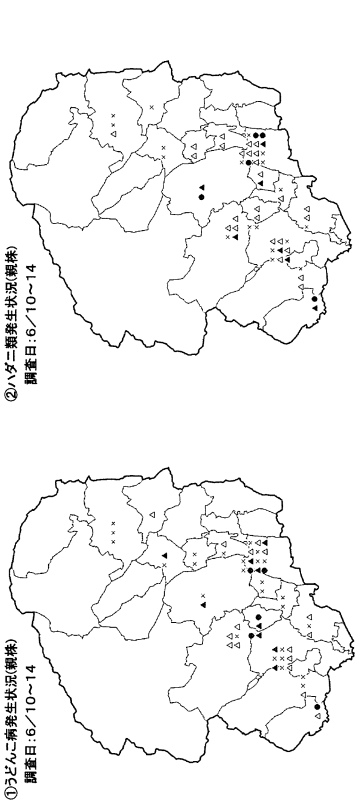
注) ハダニ類の天敵であるカブリダニ類に影響のある薬剤が含まれるため、使用の際には商品のパンフレット等をよく確認してください。なお、表中の記号は以下の通りである [○: 全ての供試系統で死亡率90%以上、△: 一部系統で殺虫効果が90%未満、×: 大半または全ての供試系統で死亡率90%未満]。

いちごの果実被害は、主に幼虫が若い果実を食害することで発生します。開花初期や1~2月など、アザミウマ類の発生が増えはじめる時期に、幼虫に対して効果が高いIGR剤(マツチ乳剤、カウンター乳剤、カスケード乳剤、アタブロン乳剤)を散布することで、果実被害の発生を抑える効果が期待できます。ただし、IGR剤は成虫に対する殺虫効果は無いため、多発生時には上記の殺虫剤と上手に組み合わせることで活用しましょう。

いちご病害虫情報第1号(6月)

平成25年6月21日
栃木県農業環境指導センター

調査項目	区画番号	アブラムシ類					備考			
		発生株数	平均値	最高値	最低値	発生率				
発生株数	0	1	30	0	22	38	15	0	5	総調査ほ場数: 56か所
平均値	0.0	1.8	53.6	0.0	39.3	67.9	26.8	0.0	8.9	総調査株数: 1,400株
最高値	1.8	0.8	41.4	0.9	28.6	50.1	50.8	0.2	5.2	(調査株数 25株)
最低値	0.0	225.0	178.5	0.0	137.4	135.5	52.8	0.0	171.2	
発生率	少	多	多	少	多	多	多	少	少	観察調査
発生株数	0	1	59	0	126	393	49	0	11	
平均値	0.0	0.1	7.1	0.0	21.6	3.5	0.0	0.4		
最高値	0.0	0.0	8.6	0.0	5.4	16.5	11.6	0.0	0.4	
最低値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生率	少	少	多	少	多	多	多	少	多	
発生率	少	少	多	少	多	多	多	少	多	



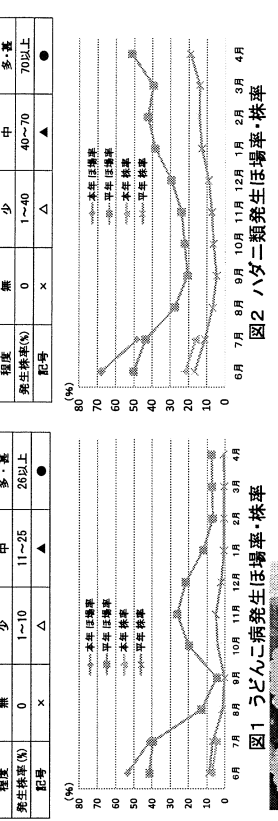
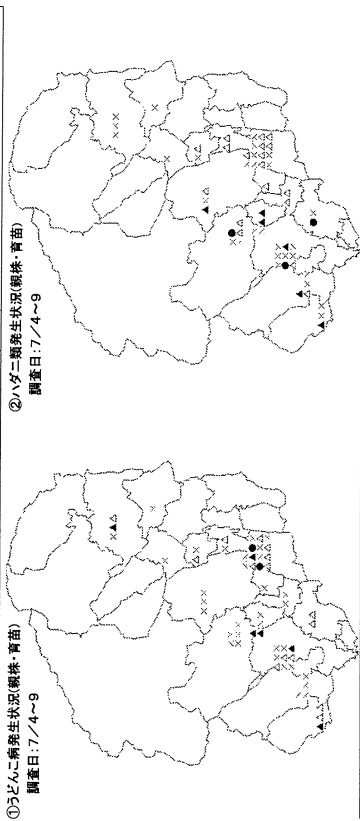
○今月の技術情報(技術指導班)○(6月)
この時期は、26年産いちごの生育、収量に影響を与える重要な時期です。病害虫の被害を最小限に抑えることが不可欠です。
さて、観株からこのラッパ発生は、概ね順調に推移しています。しかし、乾燥と高温により一部で先付られた症状が見られます。
露地育苗では、こまめなかん水や子苗の誘引、空中育苗では葉液濃度、適切なかん水の確認、排水の確認など基本的な管理が今後の良質苗の確保に大きな影響を与えます。
現在のところ炭疽病の発生はほとんどありませんが、油断は禁物です。高温期に発生が多くなりますので、ほ場観察と発生予察情報を参考に、相が備わります。相の周りで、相の備わらないか確認しましょう。
特に、今年は早い時期から高温傾向にありますので、栽培環境の確認を徹底し、水がよんだ状態では病菌が繁殖しやすくなりますので、発生しやすくなるまで、相の備わらないか確認しましょう。
また、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病の発生が見られます。ハダニ類やアブラムシ類は、本ほからの飛び込み、持ち込みが要因の一つと考えられます。観株のみでなく、ほ場周辺の環境整備を行い、密度を減らすための防除も行いましょう。
今後、天気の崩れとともに、うどんこ病が発生しやすい環境になることも予想されます。早めに予防剤を散布するなど、早期発見、早期防除の徹底を図りましょう。



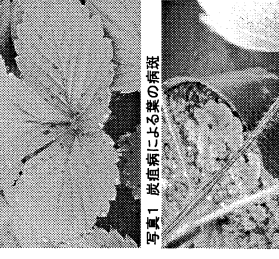
いちご病害虫情報第2号(7月)

平成25年7月19日
栃木県農業環境指導センター

調査項目	区画番号	アブラムシ類					備考			
		発生株数	平均値	最高値	最低値	発生率				
発生株数	2	0	23	1	14	27	7	1	5	総調査ほ場数: 56か所
平均値	3.6	0.0	41.1	1.8	25.0	48.2	12.5	1.8	8.9	総調査株数: 1,400株
最高値	3.3	1.4	39.5	0.6	21.8	43.4	36.8	0.5	3.0	(調査株数 25株)
最低値	109.1	0.0	104.1	308.0	116.8	117.1	29.2	359.0	178.0	
発生率	少	多	多	多	多	多	多	多	多	※2013年よりアザミウマ類については、5~9月は株間
発生株数	0	0	60	0	60	163	7	0	0	※、10~4月は花間調査
平均値	0.0	0.0	4.3	0.0	2.3	16.3	0.5	0.0	0.0	○今月の病害虫発生状況
最高値	0.1	0.0	6.6	0.0	3.1	11.1	7.4	0.0	0.3	○炭疽病、葉巻病の発生が一部のほ場で見られ、特に観株
最低値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	については発生が追加傾向にあるため注意が必要です。
発生率	少	少	多	少	多	多	多	少	多	一部の地域でうどんこ病の発生が多いため注意が必要です。
発生率	少	少	多	少	多	多	多	少	多	アブラムシ類、ハダニ類など害虫の発生も継続しています。



○今月の技術情報(技術指導班)○(7月)
現在、一部の地域でうどんこ病の発生が相次いで発生しています。この病気は比較的低温で発生するため、高温が続くと一時減少しますが、秋以降の再発をなくするため、夏期にも予防を継続することがポイントです。
・底温が低い状態ですが、梅雨明けが例年よりも早く、その後、高温が続いているため、かん水量の増加とともに発生する可能性が高くなります。
採苗後の活着不良、多湿条件は病気が発生しやすい好環境となりますので、苗床での発生、被害拡大がないよう、ほ場観察と発生予察情報を参考に、防除意識を高めます。
害虫では、ハダニ類、アブラムシ類、アザミウマ類の発生が見られます。育苗期間中に徹底した防除を行い、本ほに持ち込まないようにしましょう。
また、観株のみでなく、ほ場周辺の環境整備を行い、密度を減らすための防除も行いましょう。
なお、薬剤散布は葉へも薬液がしっかりと届くよう丁寧に散布し、防除効果が高まるようにしましょう。



平成25年8月23日
栃木県農業環境指導センター

平成25年9月20日
栃木県農業環境指導センター

いちご病害虫情報第3号(8月)

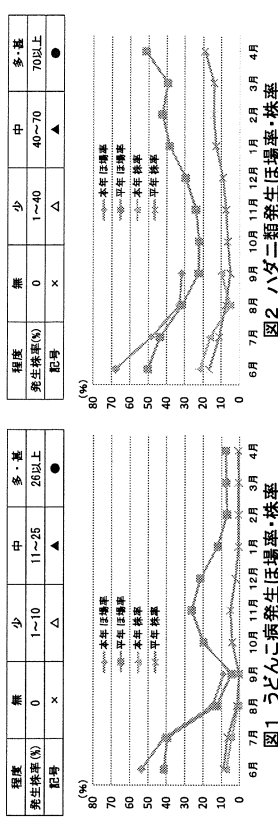
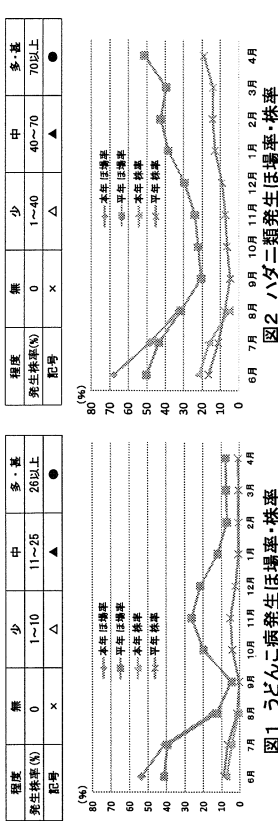
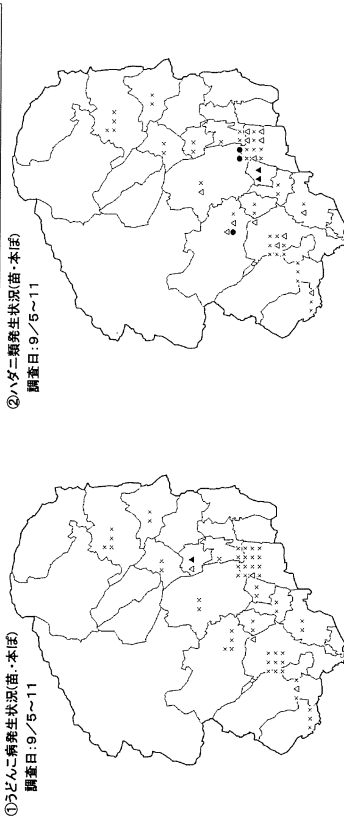
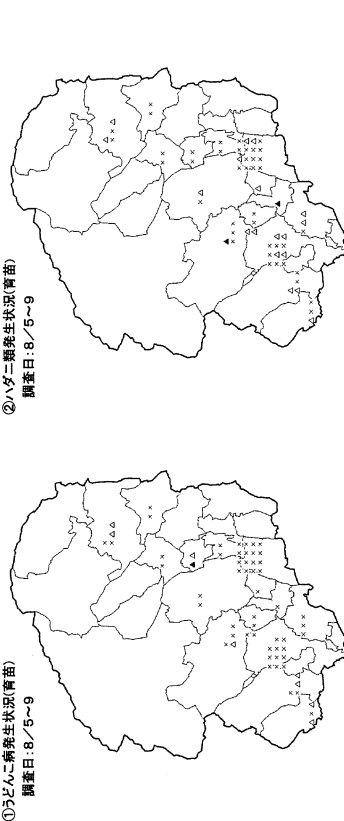
調査圃	区画番号	アブラムシ類	ハダニ類	アザミウマ類	アザミウマ幼虫	病害	
						うどんこ病	ハダニ類
発生ほ場数	3	0	9	0	12	20	0
平均値	4.9	0.0	14.8	0.0	19.7	32.8	0.0
標準偏差	6.1	0.0	12.6	1.0	20.9	31.4	13.1
発生率	80.3	-	117.5	0.0	84.3	104.5	96.3
発生率	0	0	10	0	51	74	4
発生率	0.0	0.0	0.7	0.0	3.3	4.9	0.3
発生率	0.3	0.0	1.3	0.0	3.9	7.4	0.8
発生率	0.0	-	53.8	-	84.6	88.2	37.5
発生率	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0
発生率	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0

調査日: 8/5~9

いちご病害虫情報第4号(9月)

調査圃	区画番号	アブラムシ類	ハダニ類	アザミウマ類	アザミウマ幼虫	病害	
						うどんこ病	ハダニ類
発生ほ場数	4	0	5	3	6	18	7
平均値	7.0	0.0	8.8	5.3	10.5	31.6	10.5
標準偏差	6.2	0.0	4.3	2.0	7.5	22.3	9.7
発生率	112.9	-	204.7	265.0	140.0	141.7	126.6
発生率	0	0	2	5	10	8	6
発生率	0.0	0.0	0.5	0.1	0.4	0.8	0.6
発生率	0.4	0.0	0.3	0.0	0.9	4.8	0.6
発生率	0.0	-	200.0	-	44.4	204.2	100.0
発生率	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0
発生率	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0

調査日: 9/5~11



○今月の技術情報(技術指導班)○(8月)

- 先月に引き続き、ハダニ類の発生がやや多い状況です。またアブラムシ類の発生も見られ、今後はハダニ類にも注意が必要と考えられます。
- 炭疽病の発生は、高温傾向が続いているため、今後高増する可能性もあり、注意が必要です。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本圃に持ち込まないよう、育苗床でしっかり防除しましょう。
- 例年より早い梅雨明けとその後の高温により、苗の生育の遅れ、充実不足が懸念されます。現在育苗圃の後半になりますが、日照に応じた遮光や、育苗ポットの並べ替え、かん水量の調整などの対策を行い、定植までに、揃いが良く、充実し揃った苗が出来るよう心掛けて下さい。
- また、苗の圃いが悪いと花芽の分化がばらつきやすくなります。定植は、頂花房の花芽分化をしっかりと確認してから行いましょう。

写真1 炭疽病による葉の病斑

写真2 ハダニ類によるアザミウマ幼虫

○今月の技術情報(技術指導班)○(9月)

- 定植作業は概ね順調に進んでいますが、先月に引き続き、ハダニ類の発生がやや多い状況です。今後はハダニ類にも注意が必要と考えられます。
- 一部で炭疽病、萎黄病の発生が見られます。また、気温の低下とともにうどんこ病の発生が多くなっています。今後これらの病害虫の発生が拡大する可能性があります。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見に努め、本圃での発生が拡大しないよう保温開始期までしっかりと防除しましょう。
- 定植後は、畝内側への根張りを促進するため、活着後のかん水は少量多回数で行うとともに、マルチ張りはえき花房の花芽分化期以降に行うよう心がけましょう。
- 近年、秋期に高温となる年が多く、株の消耗による作柄低下の要因となっています。積極的な換気や循環扇等の活用により、ハウス内の気温上昇を抑制し、地上部の徒長を防ぎましょう。

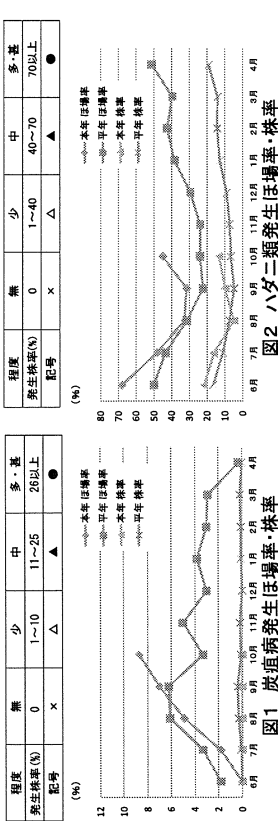
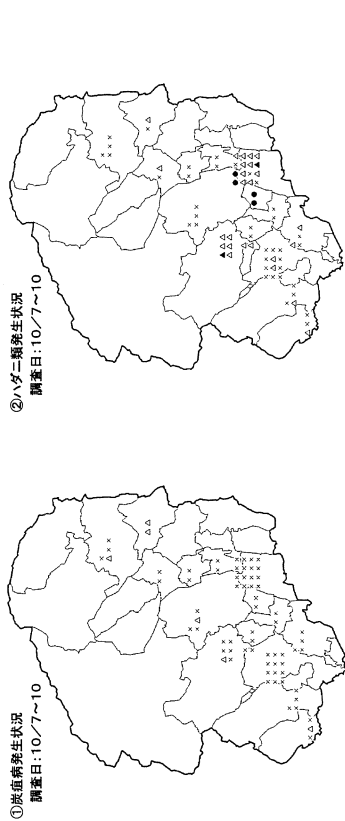
写真1 うどんこ病の発生した葉

写真2 ハダニ類とその卵

いちご病害虫情報第5号(10月)

平成25年10月25日
栃木県農業環境指導センター

調査日:10/7~10		調査日:10/7~10		調査日:10/7~10		調査日:10/7~10		調査日:10/7~10	
原産国	区画	ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ	ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ
ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ	ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ	ハズミ	アザミ
発生回数	6	0	8	8	31	9	9	3	3
平均値	8.7	0.0	11.6	11.6	44.9	13.0	13.0	25.0	25.0
発生回数	3.1	0.0	19.7	3.3	14.0	23.9	24.7	21.2	57.1
発生回数	280.6	-	59.9	351.5	82.9	187.9	52.6	61.3	43.3
発生回数	多	少	やや少	多	やや少	多	やや少	多	やや少
発生回数	0	0	58	2	14	28	19	7	172
発生回数	0.0	0.0	3.4	0.1	13.2	1.1	0.4	3.6	3.6
発生回数	0.1	0.0	4.0	0.1	1.8	6.6	1.8	1.8	1.7
発生回数	0.0	0.0	100.0	42.1	200.0	61.1	22.2	211.8	211.8
発生回数	少	少	やや少	多	やや少	多	やや少	多	やや少
発生回数	少	少	やや少	多	やや少	多	やや少	多	やや少



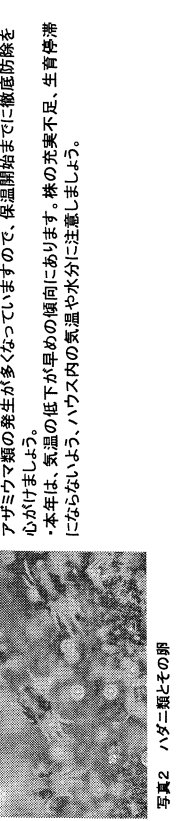
①炭疽病発生状況
調査日:10/7~10

②ハダニ類発生状況
調査日:10/7~10

○今月の発生状況
発生回数: 6回
発生回数: 3.1回
発生回数: 280.6回
発生回数: 多
発生回数: 0回
発生回数: 0.1回
発生回数: 0.0回

○今月の発生状況
発生回数: 6回
発生回数: 3.1回
発生回数: 280.6回
発生回数: 多
発生回数: 0回
発生回数: 0.1回
発生回数: 0.0回

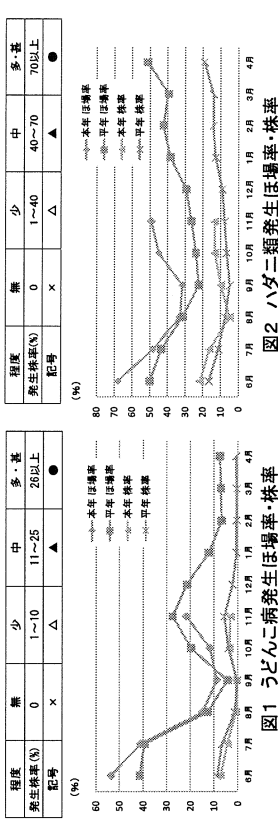
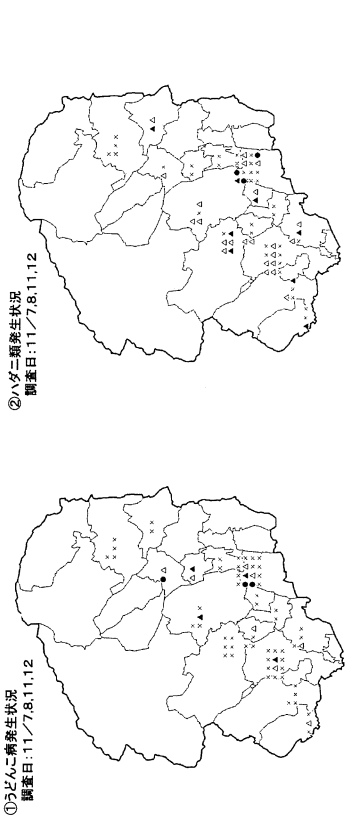
○今月の発生状況
発生回数: 6回
発生回数: 3.1回
発生回数: 280.6回
発生回数: 多
発生回数: 0回
発生回数: 0.1回
発生回数: 0.0回



いちご病害虫情報第6号(11月)

平成25年11月21日
栃木県農業環境指導センター

調査日:11/7・8,11,12		調査日:11/7・8,11,12		調査日:11/7・8,11,12		調査日:11/7・8,11,12		調査日:11/7・8,11,12	
原産国	区画	ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ	ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ
ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ	ハズミ	アザミ	コナジ	アブラ	ハズミ	アザミ
発生回数	9	1	15	12	16	34	18	3	21
平均値	13.0	1.4	21.7	17.4	23.2	49.3	26.1	4.3	30.4
発生回数	4.9	0.0	27.5	6.0	15.4	26.5	33.6	9.9	34.0
発生回数	285.3	-	78.9	290.0	154.7	186.0	77.7	43.4	89.4
発生回数	多	少	やや少	多	やや少	多	やや少	多	やや少
発生回数	0	0	53	6	102	232	31	1	70
発生回数	0.0	0.0	3.1	0.3	5.9	13.4	1.8	0.1	1.0
発生回数	0.2	0.0	5.7	0.1	2.7	7.8	3.7	0.6	2.2
発生回数	0.0	-	54.4	300.0	218.5	171.8	48.6	16.7	45.2
発生回数	少	少	やや少	多	やや少	多	やや少	多	やや少
発生回数	少	少	やや少	多	やや少	多	やや少	多	やや少



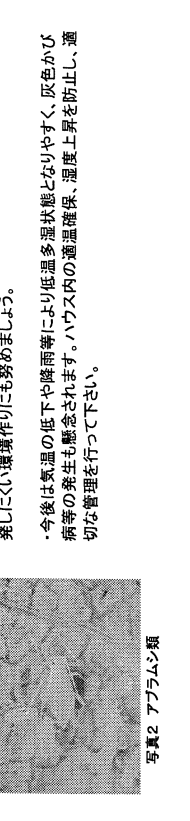
①うどんこ病発生状況
調査日:11/7・8,11,12

②ハダニ類発生状況
調査日:11/7・8,11,12

○今月の発生状況
発生回数: 9回
発生回数: 4.9回
発生回数: 285.3回
発生回数: 多
発生回数: 0回
発生回数: 0.2回
発生回数: 0.0回

○今月の発生状況
発生回数: 9回
発生回数: 4.9回
発生回数: 285.3回
発生回数: 多
発生回数: 0回
発生回数: 0.2回
発生回数: 0.0回

○今月の発生状況
発生回数: 9回
発生回数: 4.9回
発生回数: 285.3回
発生回数: 多
発生回数: 0回
発生回数: 0.2回
発生回数: 0.0回



いちご病害虫情報第7号(12月)

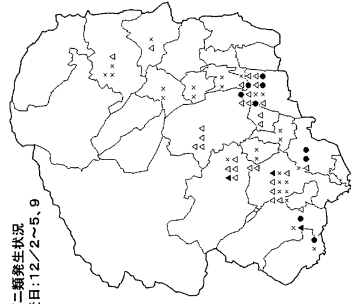
平成25年12月13日
栃木県農業支援指導センター

調査区	調査区		調査区		調査区		調査区		調査区		備考
	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区	調査区		
発生状況	5	0	15	12	7	41	12	0	6	総調査株数: 68カ所	
平均値	7.4	0.0	22.1	17.6	10.3	60.3	17.6	0.0	8.8	総調査株数: 1,700株	
標準偏差	2.6	1.9	23.3	6.6	7.8	33.5	40.8	4.0	18.6	(調査株数 25株 (調査区数 100区))	
発生状況	284.6	0.0	94.8	314.3	132.1	180.0	43.1	0.0	47.3	※アザミウマ類の調査は花蕾葉かつ当年産は過去3年の値	
平均値	多	少	平均値	多	平均値	多	平均値	少	平均値		
発生状況	0	0	19	5	13	335	22	0	9	○今月の発生状況	
平均値	0.0	0.0	1.1	0.3	0.8	19.7	1.3	0.0	0.1	・栽培者や農業者が近年より多くの現場で発生を報告しています。	
標準偏差	0.0	0.1	2.5	0.1	1.4	8.9	7.0	0.2	0.5	・うどんこ病は、がくや果梗、果実等に多く発生しています。	
発生状況	-	0	0	44.0	300.0	57.1	199.0	18.6	0.0	・ハダニ類が多発し、クモの巣状となった株が見られる箇所も	
平均値	少	平均値	多	平均値	多	平均値	多	平均値	少	あります。	

①うどんこ病発生状況
調査日:12/2~5,9



②ハダニ類発生状況
調査日:12/2~5,9



程度	無	少	中	多	甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上	26以上
記号	○	△	▲	●	●

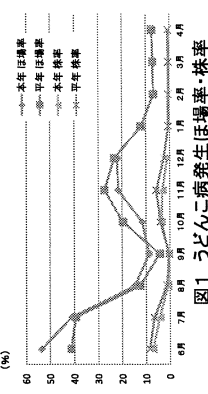


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

程度	無	少	中	多	甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	70以上	70以上
記号	○	△	▲	●	●

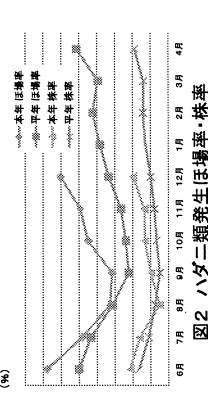


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率



写真1 果実に発生したうどんこ病



写真2 ハダニ類多発株の葉

○今月の技術情報(技術指導班)○(12月)

・10月下旬の日照時間の減少、11月中旬以降の気温低下によりいちごの生育はやや遅れています。現在うどんこ病の発生が散見されますが、今後は灰色かび病などにも注意する必要があります。

・害虫の発生は減少傾向にありますが、ハダニ類が引き続き多く、アブラムシ類、アザミウマ類等の発生が一部で継続しています。換気時間の短縮や収穫盛期になると防除作業が遅れがちになります。春先の気温上昇とともに急激に増加する恐れがありますので、年内のうちに出来るだけ密度を下げておきましょう。特に、ハダニ類の発生は、生育も大きく左右されます。

・今後も低温傾向が継続すると生育の遅れ、収穫量の減少につながる恐れがあります。ハウスの隙間を無くして保温効率を上げるなど温度管理を徹底し、作物を良好に保ちましょう。